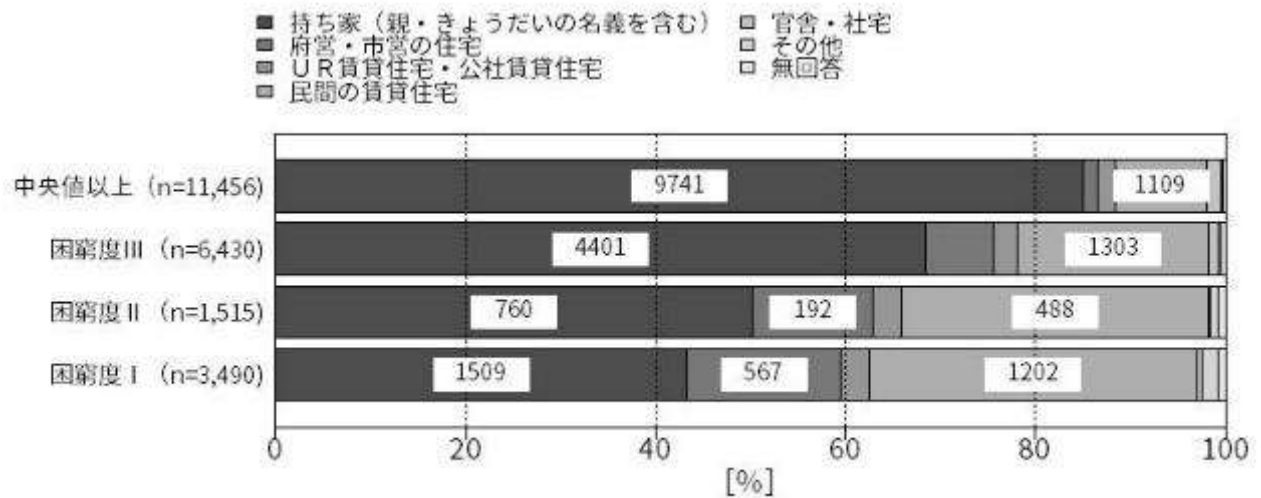


困窮度別に見た、住居（保護者票 問 4）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

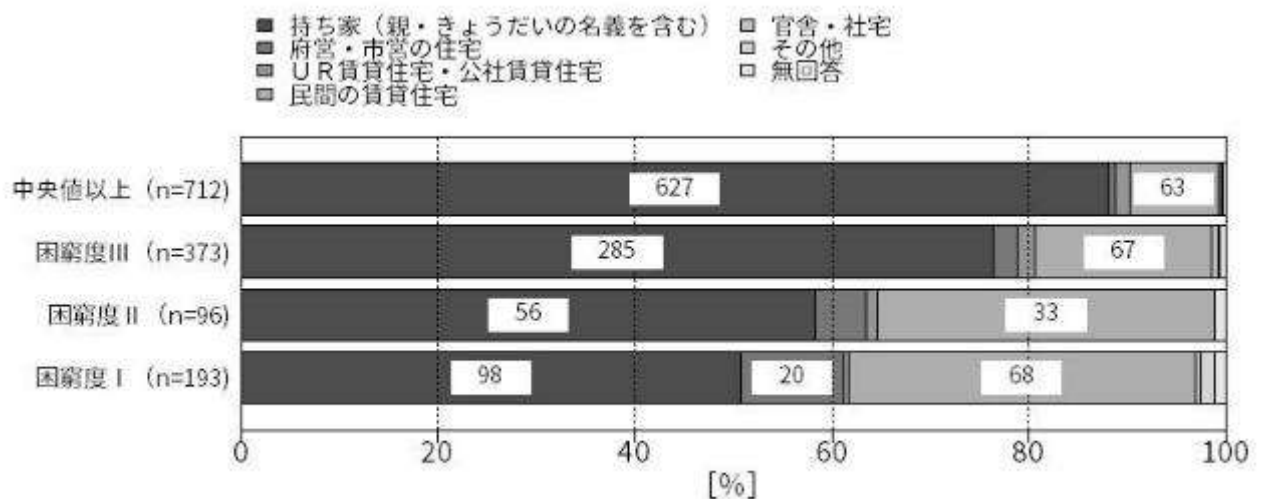
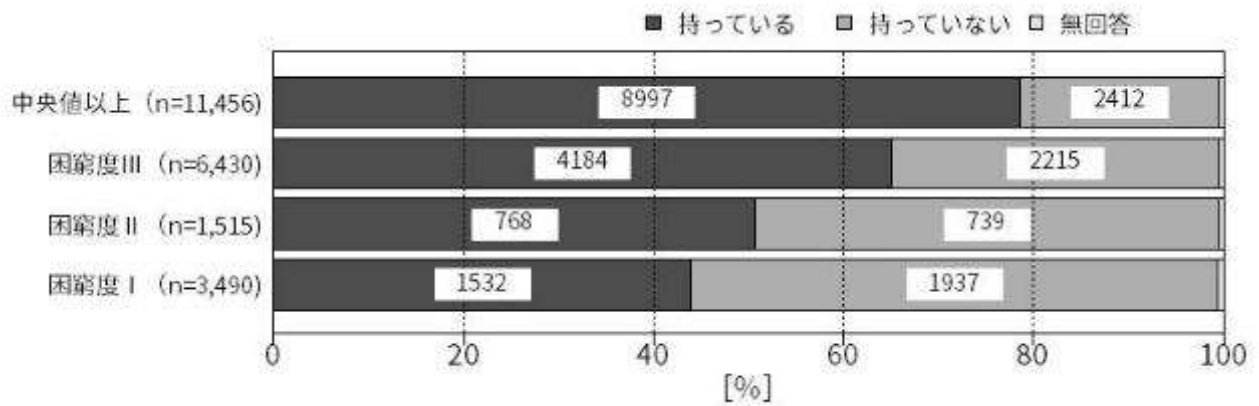


図 119. 困窮度別に見た、住居

困窮度別に住居を見ると、中央値以上群では、「持ち家」と回答した割合は 88.1%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では、50.8%であった。

困窮度別に見た、自家用車の所有（保護者票 問5）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

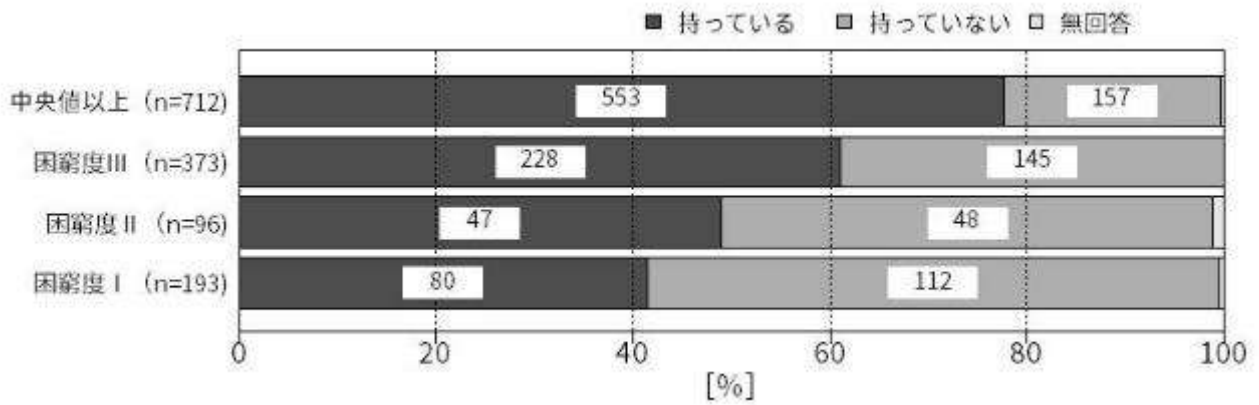
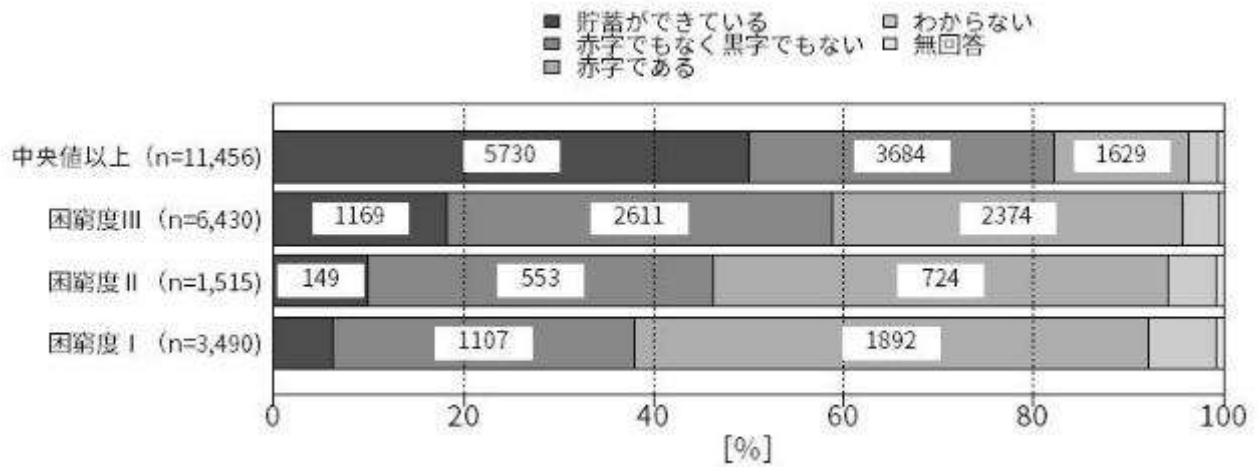


図 120. 困窮度別に見た、自家用車の所有

困窮度別に自家用車の所有を見ると、中央値以上群では、車を所有している世帯が 77.7%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では 41.5%であった。

困窮度別に見た、家計状況（保護者票 問6(1)）

<大阪市24区>



<大阪市淀川区>

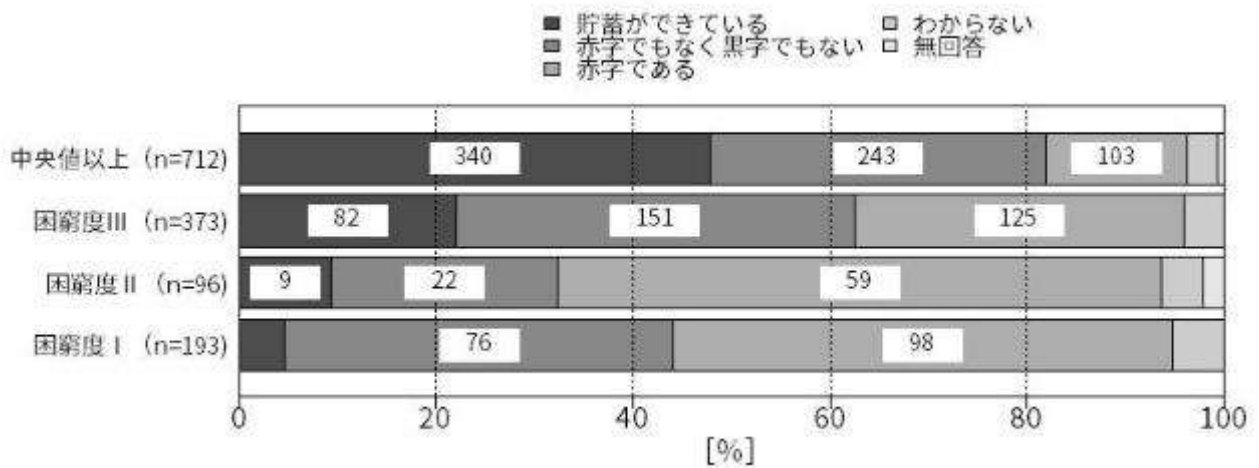
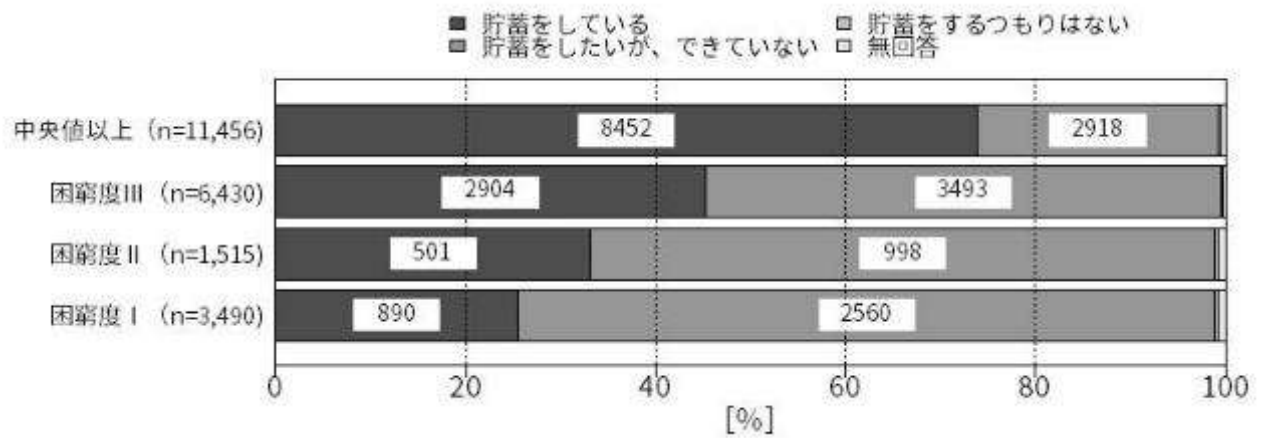


図 121. 困窮度別に見た、家計状況

困窮度別に見た家計の状況を見ると、困窮度が高まるにつれて、「貯蓄ができている」と回答する割合が低くなっていった。中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、14.5%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では、50.8%となり、約5割を占めた。

困窮度別に見た、子どものための貯蓄（保護者票 問 6(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

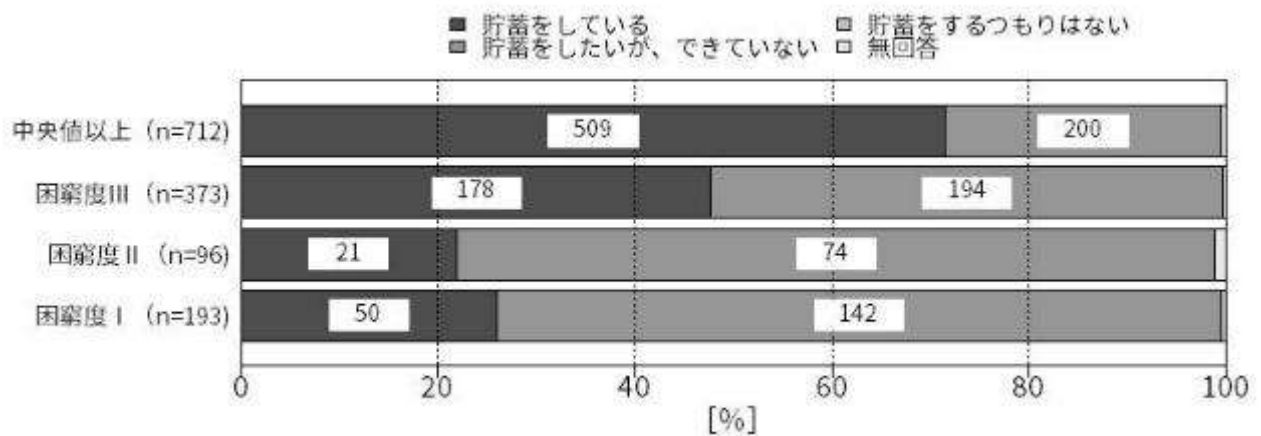
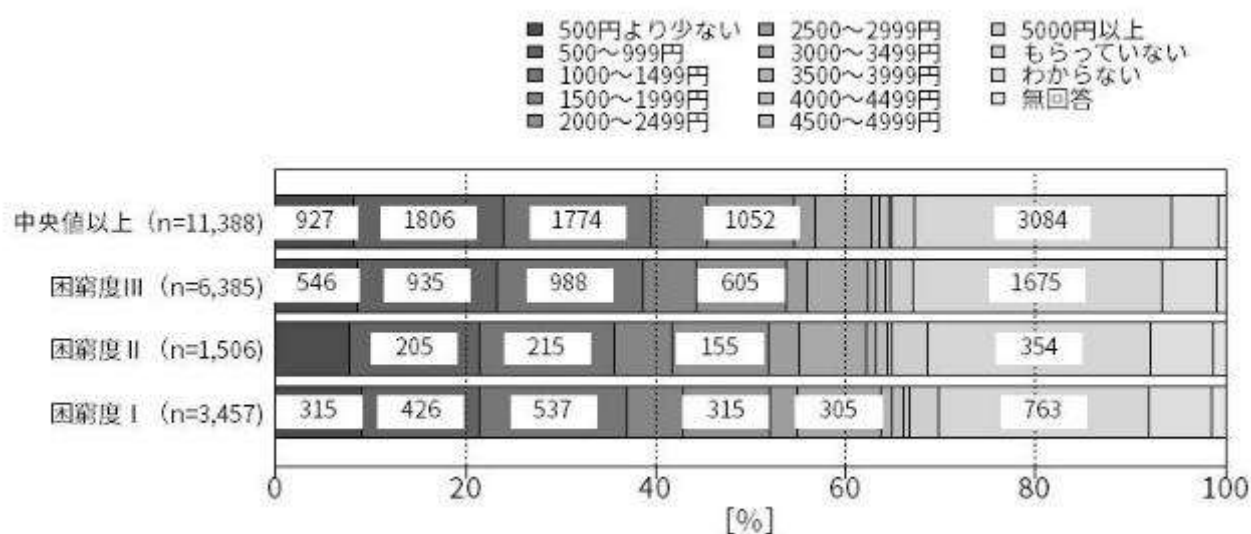


図 122. 困窮度別に見た、子どものための貯蓄

困窮度別に子どものための貯蓄を見ると、中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が 71.5%であったが、困窮度Ⅰ群では 25.9%であり、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答する割合が 73.6%であった。

困窮度別に見た、おこづかいの金額分布（子ども票 問 20(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

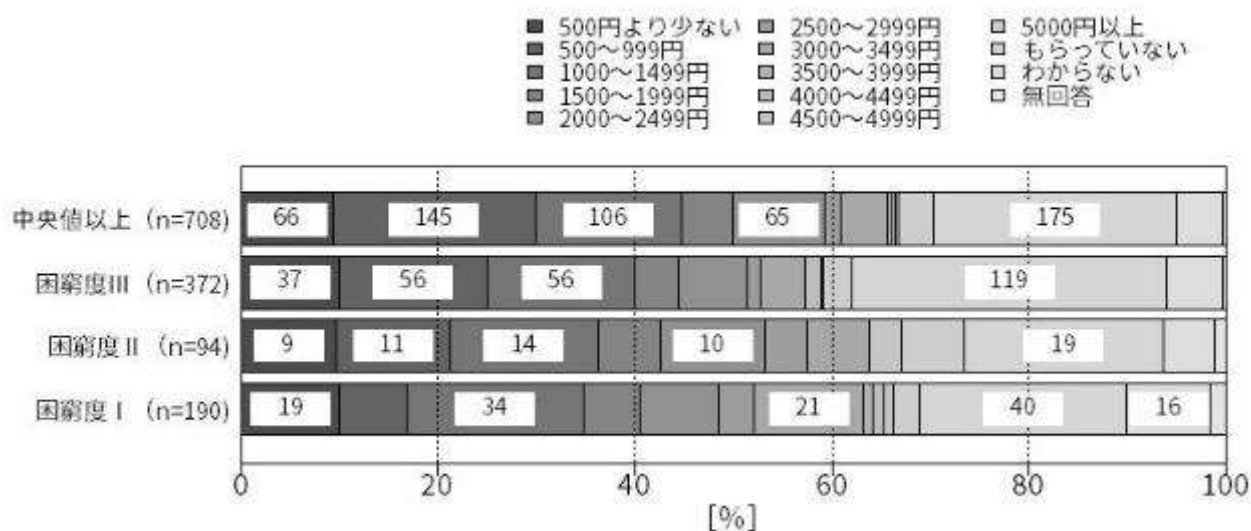
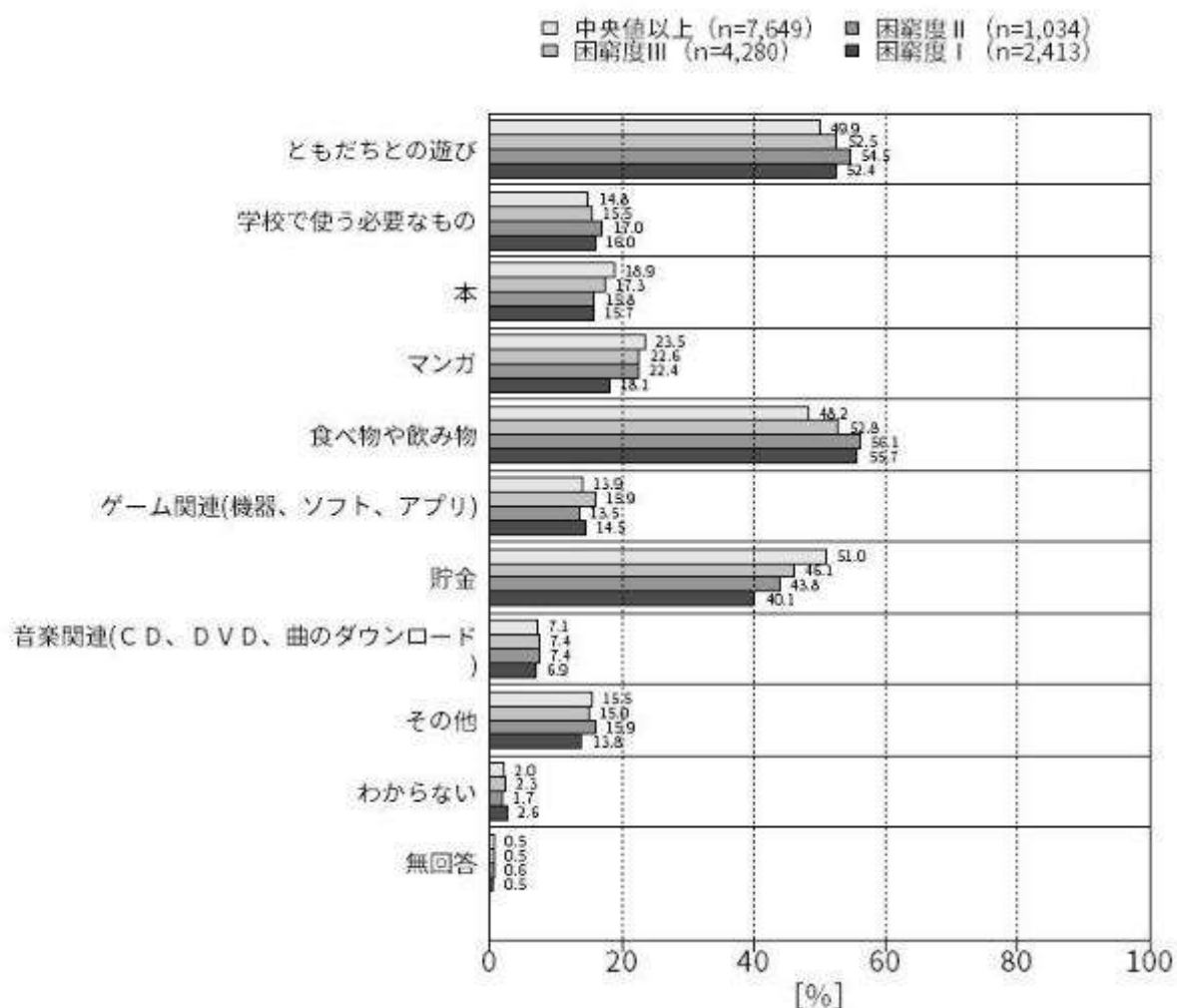


図 123. 困窮度別に見た、おこづかいの金額分布

困窮度別におこづかいの金額分布を見ると、困窮度が高まるにつれて、「500～999 円」と回答した割合が低くなる。なお、おこづかいをもらっているが、その使途や必要な物は親に購入してもらっているか、など詳細をみる必要がある。

困窮度別に見た、おこづかいの使い方（子ども票 問 20(3)）

<大阪市 24 区>



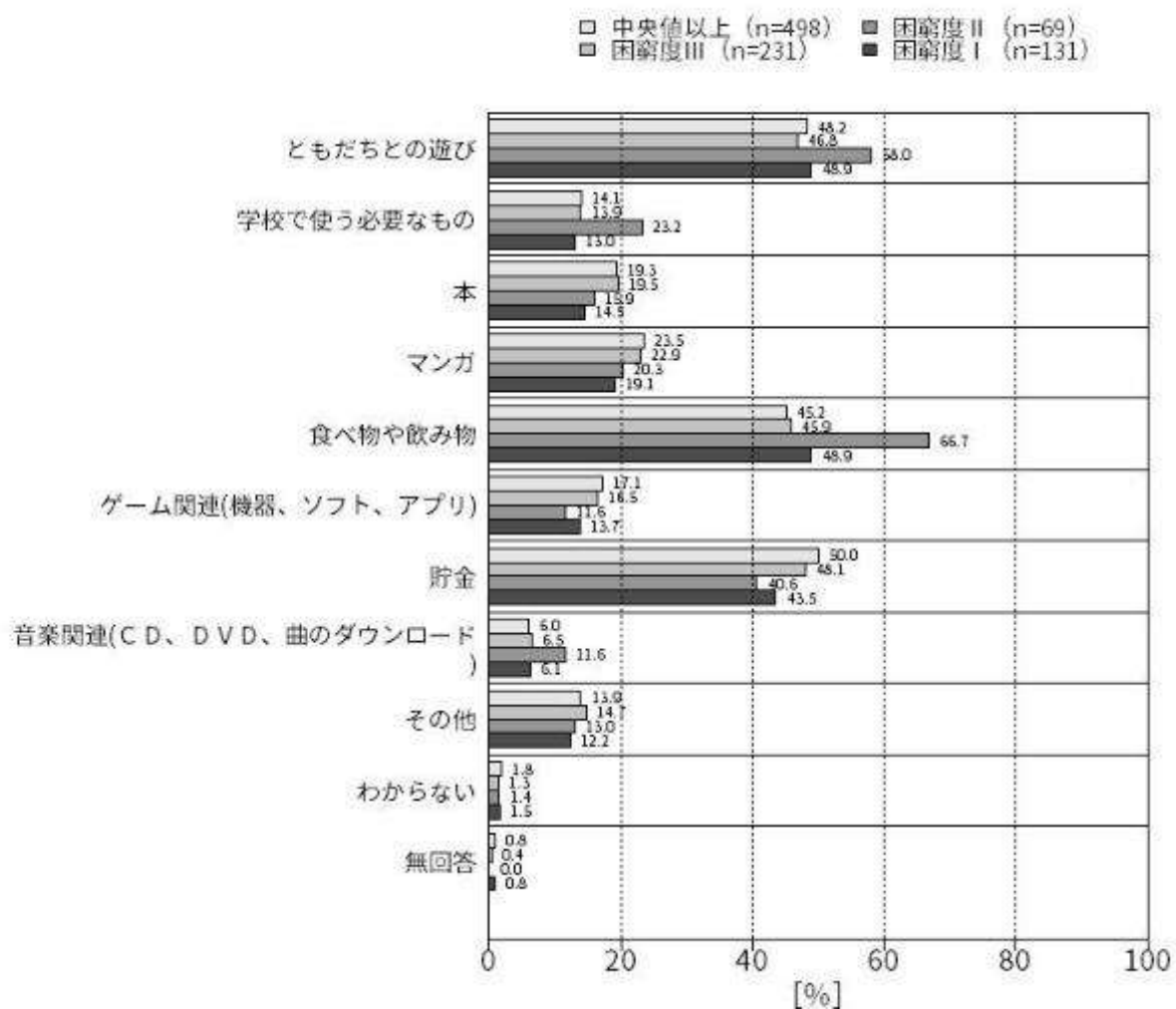


図 124. 困窮度別に見た、おこづかいの使い方

困窮度別におこづかいの使い方を見ると、「貯金」が中央値以上群 50.0%であったのに対して、困窮度Ⅱ群では 40.6%、困窮度Ⅰ群では 43.5%であった。

<経済状況に関する考察>

困窮度が深刻化するに従い、生活面での困難は増す傾向が見られた。困窮度Ⅰの群では6.2%の世帯が「電気・ガス・水道などが止められた」、6.7%の世帯が「医療機関を受診できなかった」、13.5%の世帯が「敷金・保証金等を用意できないので、住み替え・転居を断念した」、15.5%の世帯が「電話などの通信料の支払いが滞ったことがある」と回答している。これらの質問項目に対して、中央値以上の群において、経験があると回答した世帯は2%未満であり、生活面での格差が明確に表れている。保険料などの滞納は、中央値以上の群では3%未満にとどまっているのに対して、困窮度が深刻になるほど高い割合になっており、困窮度Ⅰの群では20%を超える世帯が該当すると回答している。「年金の支払いが滞ったことがある」という項目に関しては、保護者が将来においても生活困窮に陥る可能性を示唆するデータでもあるため、看過することができない。このような経済状況は、保護者の心理的な面にも反映されており、「生活の見通しが立たなくて不安になったことがある」と回答した世帯は、中央値以上の群では9.6%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では42.0%であった。なお、経済的理由で生じた生活上の困難に関する質問項目は、現代の日本社会において通常は経験しないことが想定されている。質問項目について「どれにも当てはまらない」と回答した世帯は、中央値以上では35.5%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では6.2%であった。

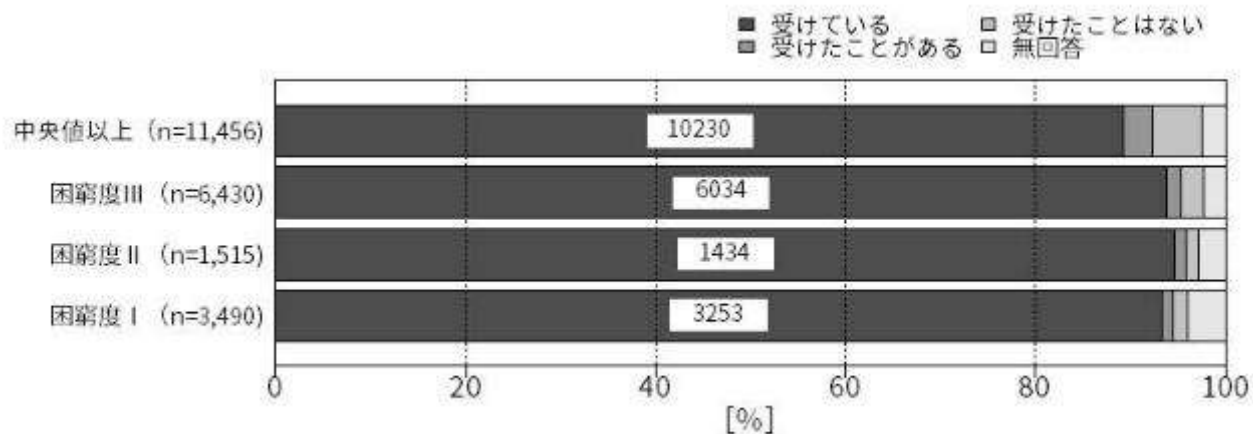
世帯の経済状況は、子どもの生活にも影響を与えていることが確認できる。たとえば、困窮度Ⅰの群では「子どもを医療機関に受診させることができなかった」世帯は2.6%で、「子どもの進路を変更した」世帯は4.7%であった。中央値以上の群では該当すると回答した世帯はともに1%以下であった。所得の差は、学習面の機会の差にも表れている。「子どもを習い事に通わすことができなかった」が、中央値以上の群では5.1%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では30.1%、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」が中央値以上の群で4.9%であったのに対して困窮度Ⅰの群では26.4%と少なくとも約5倍の差が生じている。この差は、ヒューマンキャピタルの面で子どもの将来に影響を与えることが予想される。学校外で多様な「体験」をすることも、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想される。しかし、調査結果ではこの点においても格差があることが明らかになった。たとえば、「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」という回答は、中央値以上の群で10.4%であったのに対して困窮度Ⅰの群では40.9%であった。

なお、中央値以上の群では66.6%が「どれにも当てはまらない」、すなわち、子どもに困難なく資源や機会を提供できていると回答している。子どもに対して困難なく資源や機会が提供できている世帯も多数いるという点にも留意しておく必要があるだろう。なお、子どものために貯蓄ができている世帯は、中央値以上の群では71.5%なのに対して、困窮度Ⅰの群では25.9%に過ぎない。

(2) 家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、児童手当（保護者票 問 30(3)①)

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

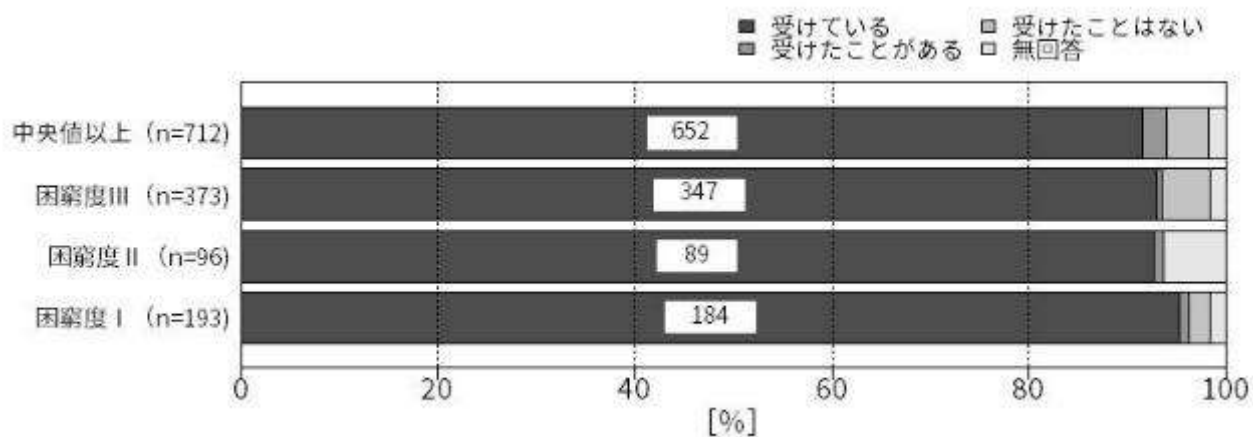
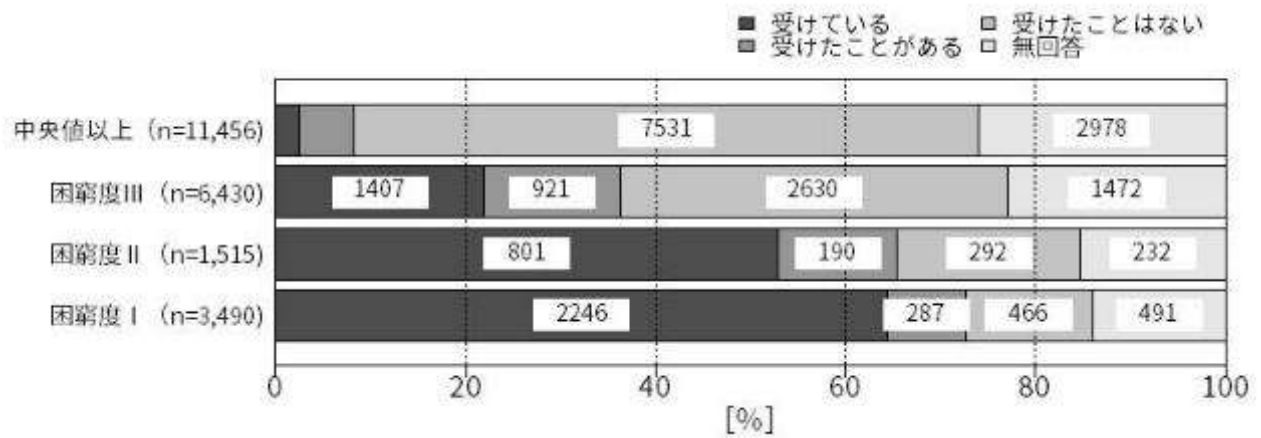


図 125. 困窮度別に見た、児童手当

児童手当は多くの世帯が受給していた。困窮度別に児童手当の受給率を見ると、困窮度Ⅰ～Ⅲ群において、とりわけ多くの世帯（92.7%～95.3%）が「受けている」に回答した。

困窮度別に見た、就学援助費（保護者票 問 30(3)②）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

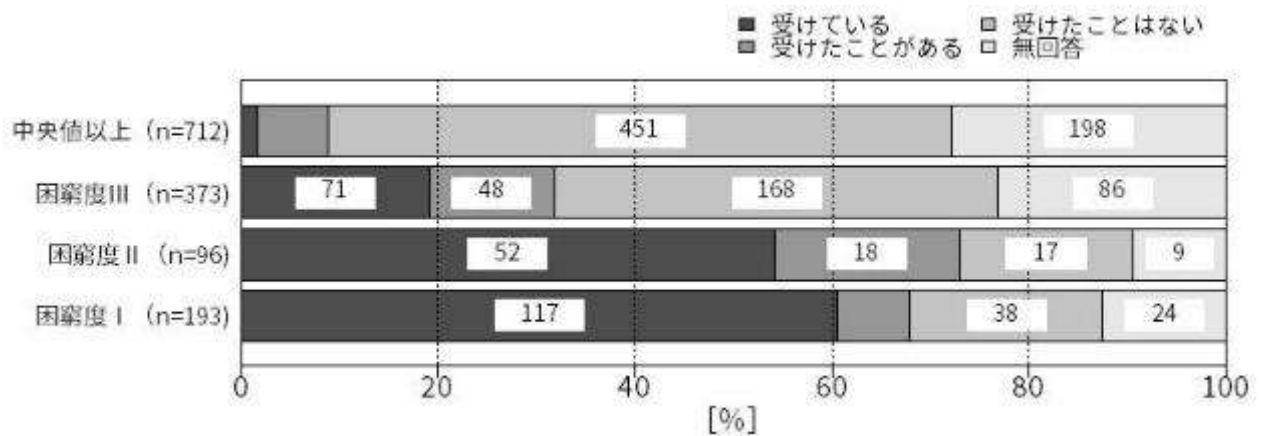
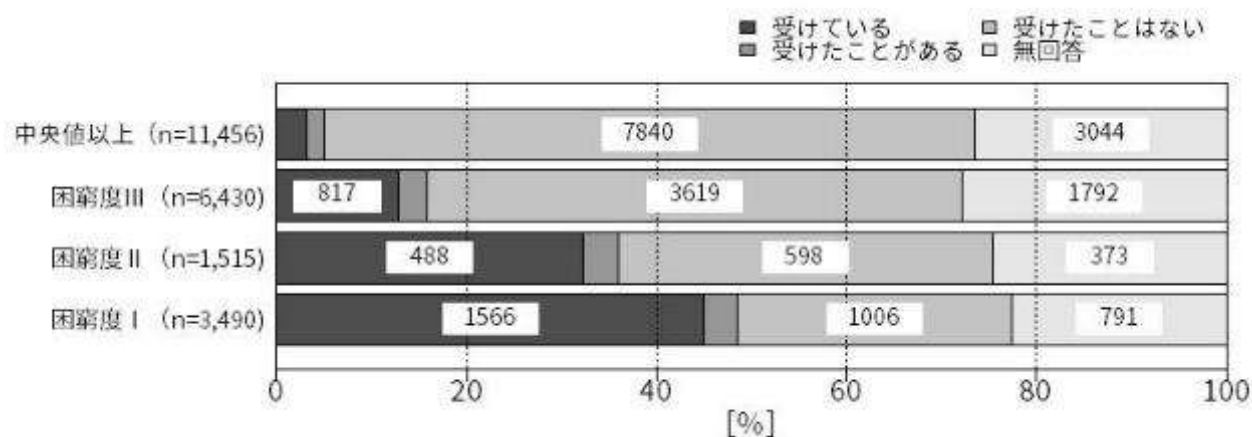


図 126. 困窮度別に見た、就学援助費

困窮度別に就学援助費の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当（保護者票 問 30(3)③）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

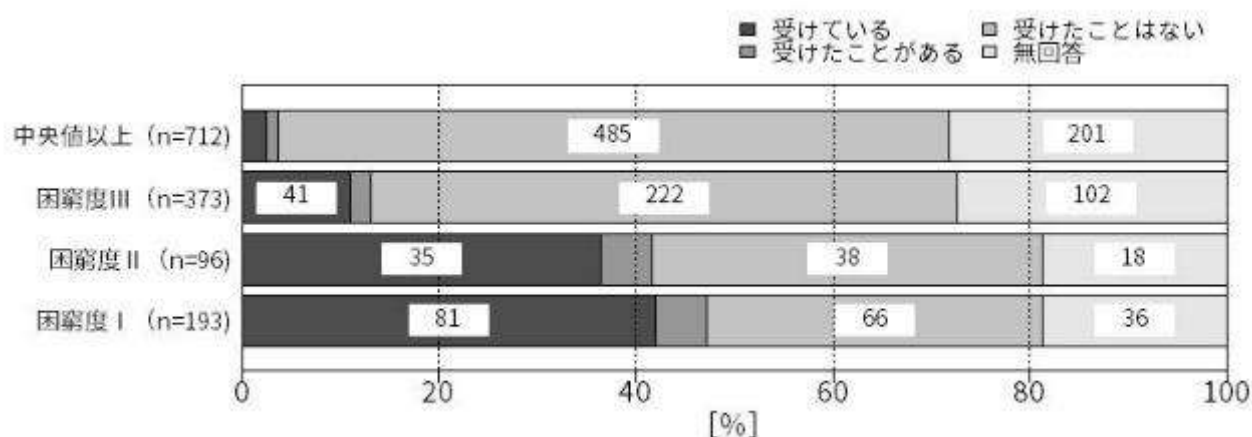


図 127. 困窮度別に見た、児童扶養手当

困窮度別に児童扶養手当の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。以下は、ひとり親世帯での困窮度別に見た受給状況である。困窮度Ⅰ群においても「受けたことはない」という回答が 14.7%見られる。

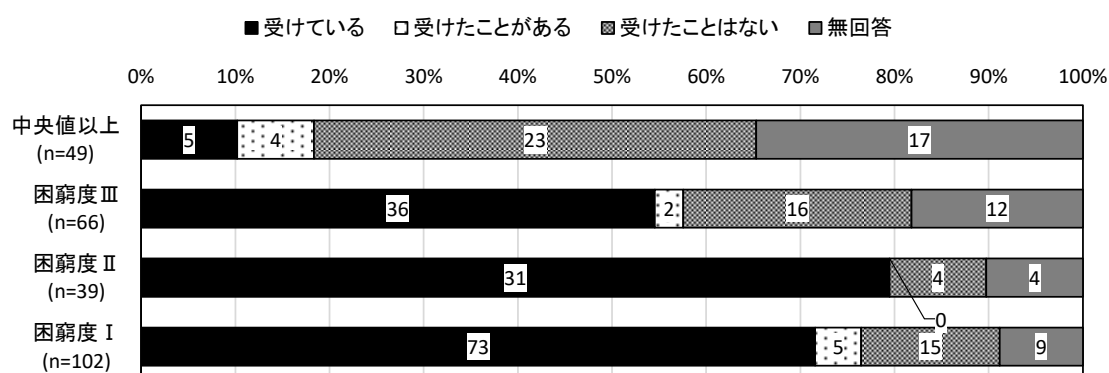
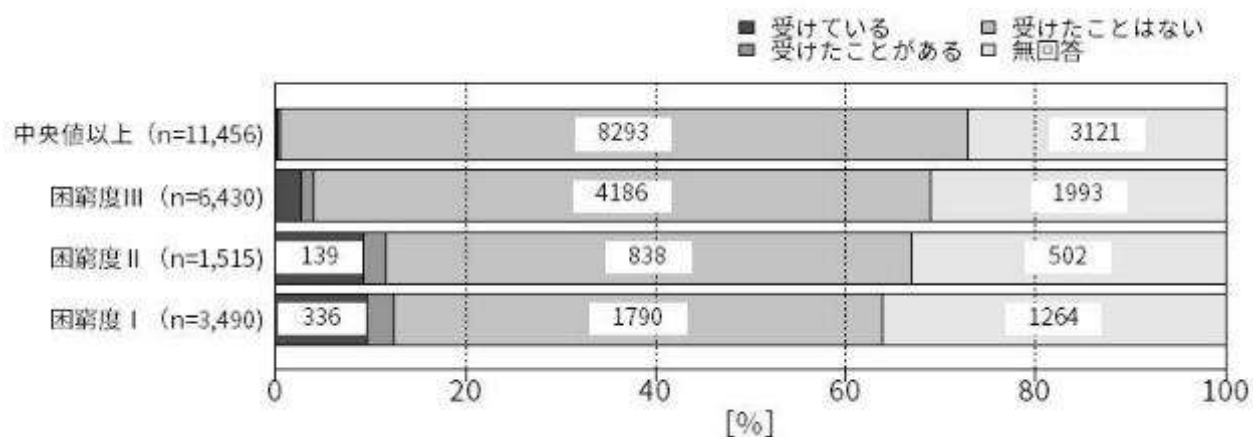


図 127 の補足図. 困窮度別に見た、児童扶養手当（ひとり親）

困窮度別に見た、生活保護（保護者票 問 30(3)⑤)

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

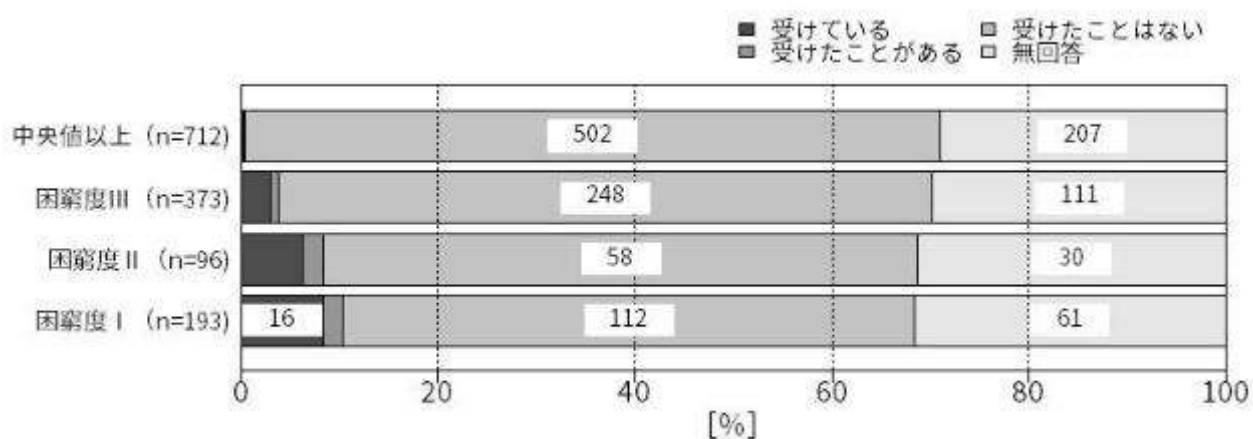
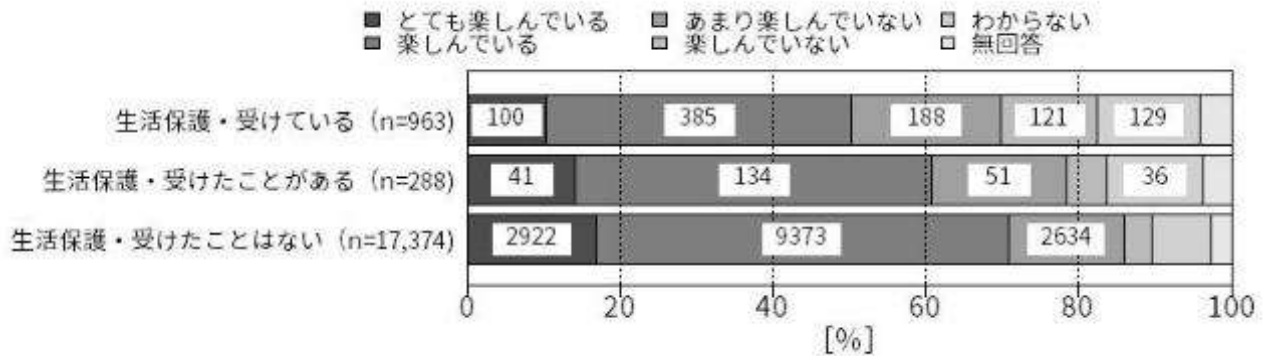


図 128. 困窮度別に見た、生活保護

困窮度別に生活保護の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は8.3%であった。困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

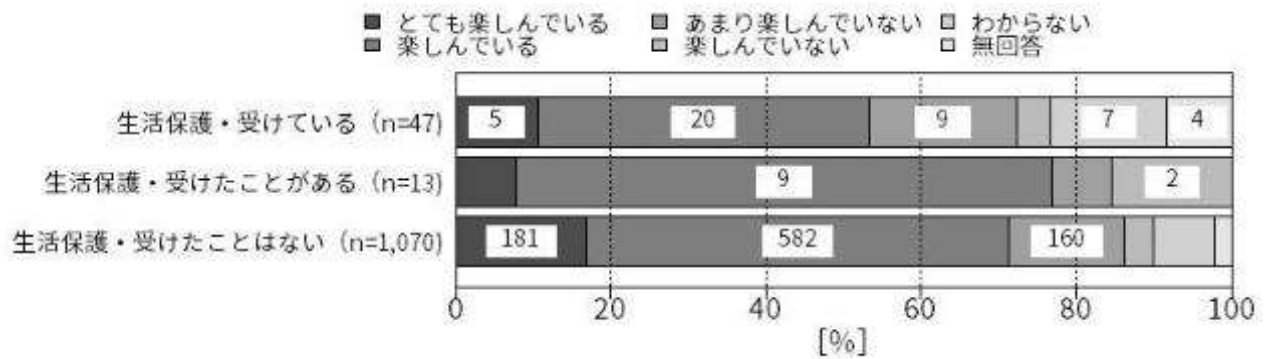


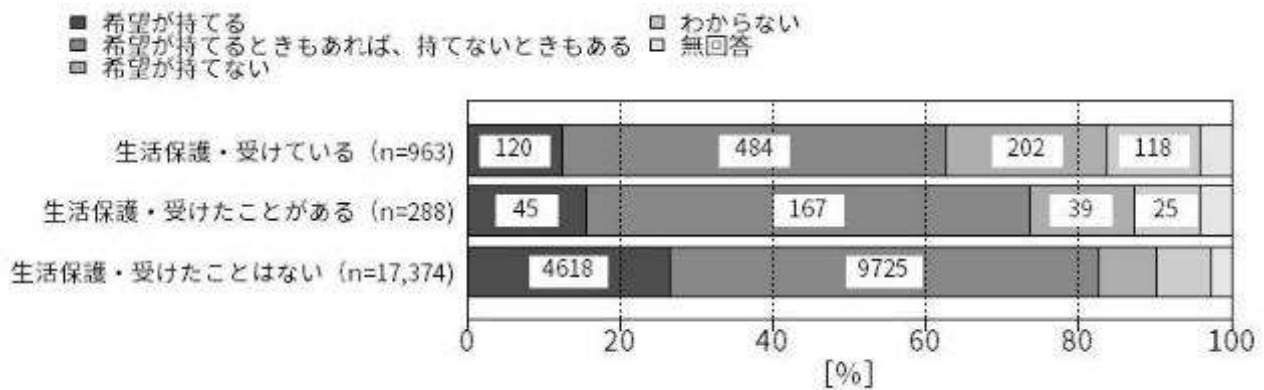
図 129. 生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けていない世帯では、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」がそれぞれ 16.9%、54.4%であったのに対し、生活保護を受けている世帯では、10.6%、42.6%と低かった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

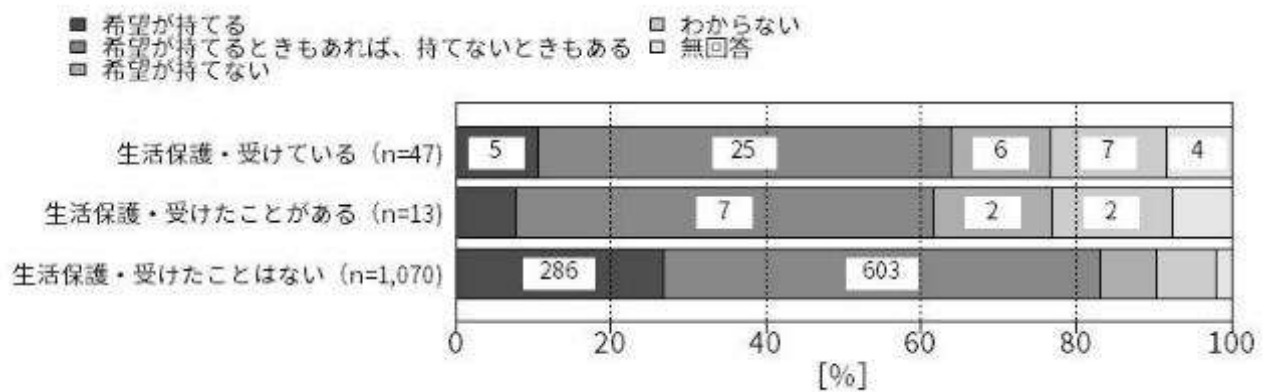
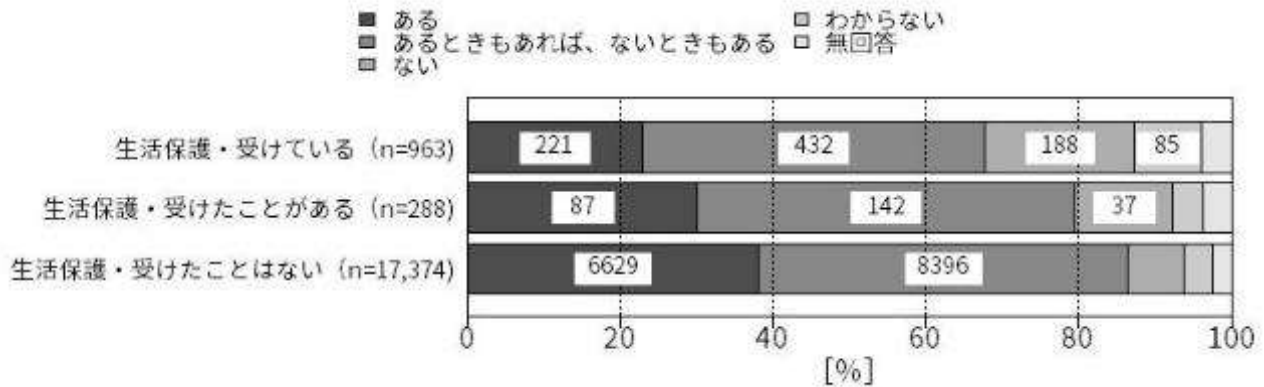


図 130. 生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けていない世帯では、「希望が持てる」が 26.7%であったのに対し、生活保護を受けている世帯では 10.6%と低かった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

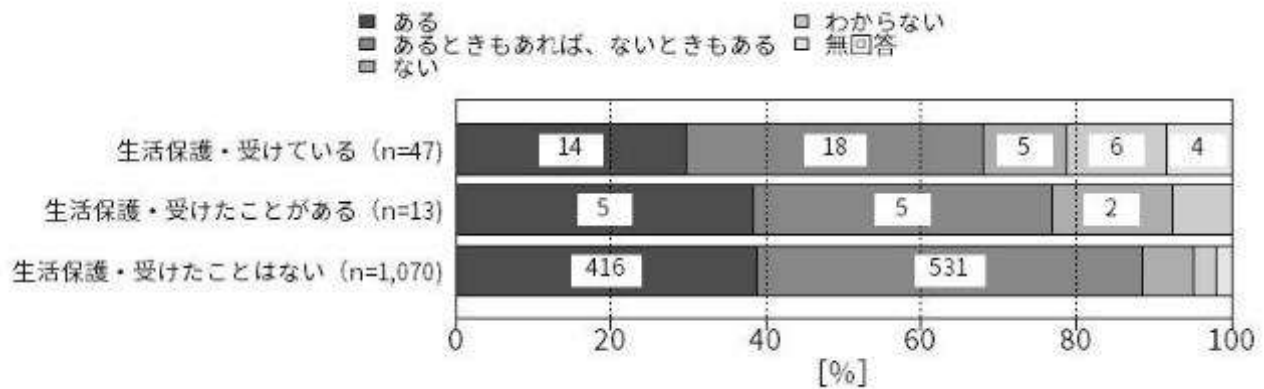


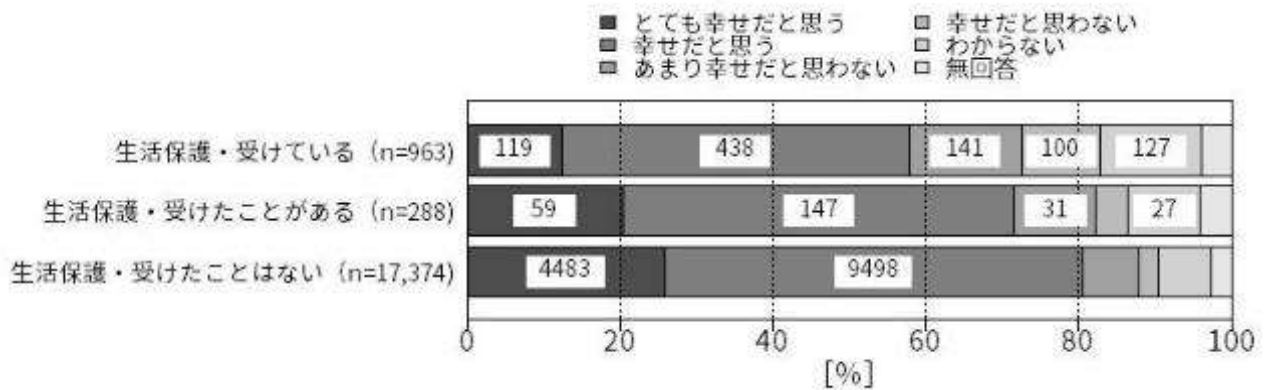
図 131. 生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けていない世帯では、「希望が持てる」が 26.7%であったのに対し、生活保護を受けている世帯では 10.6%と低かった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

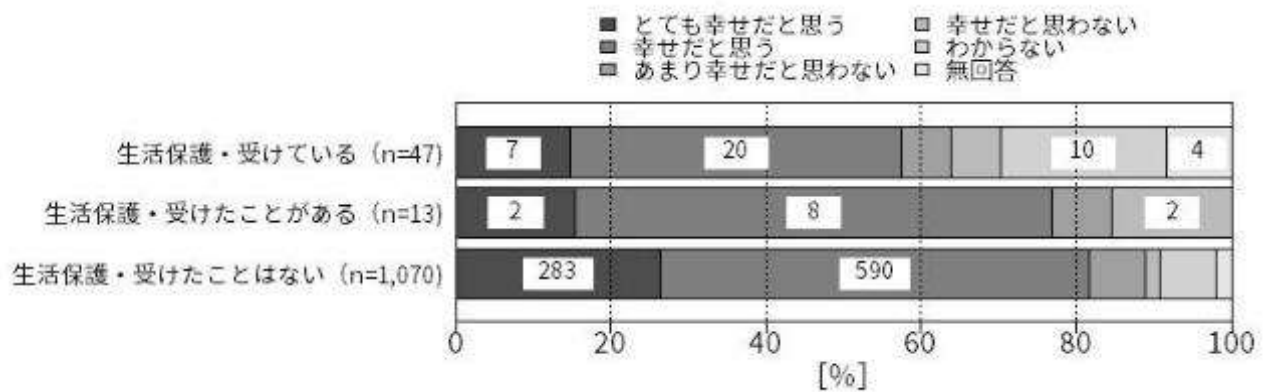


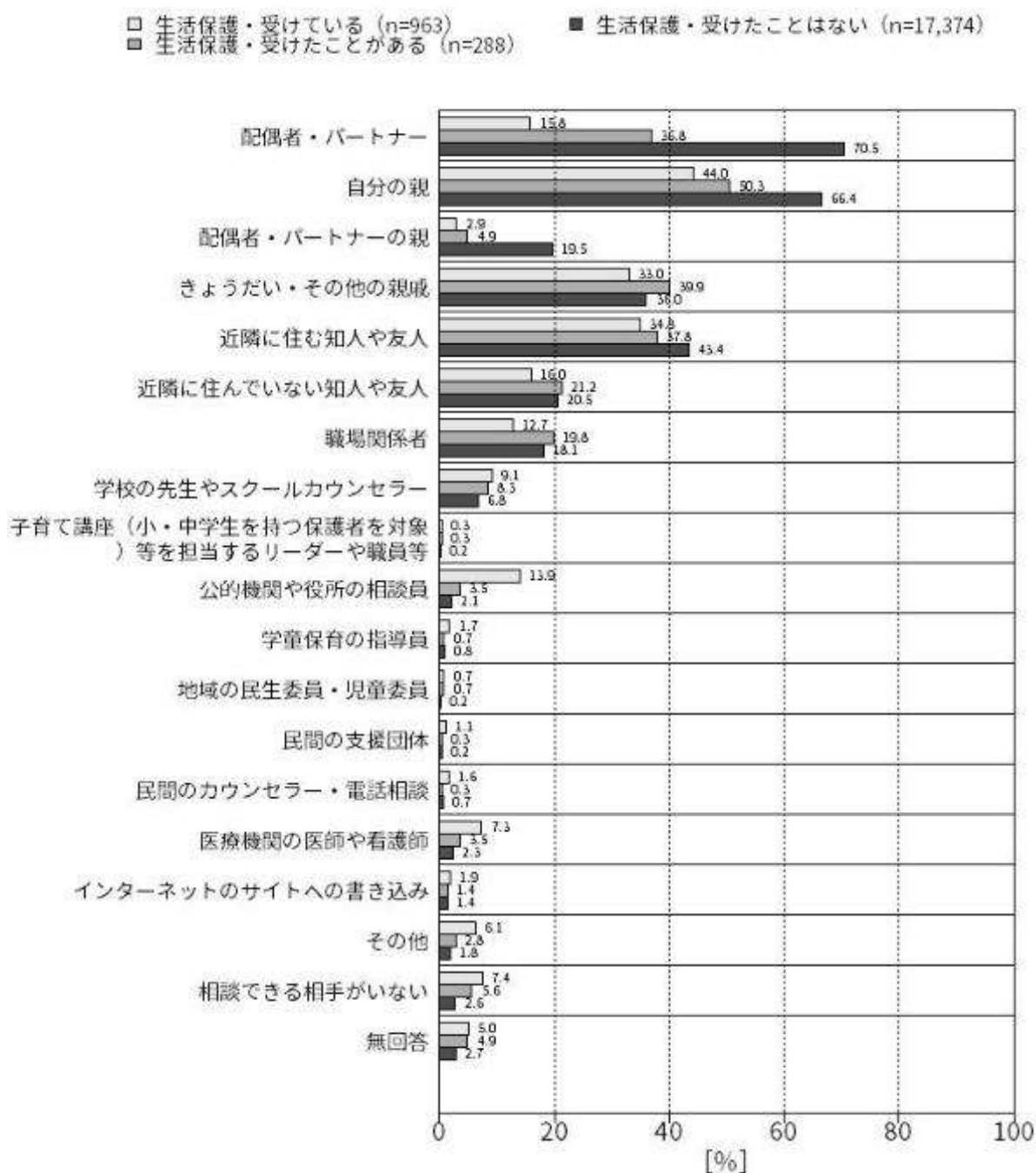
図 132. 生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、「とても幸せだと思う」という回答が 14.9%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 26.4%であった。

生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 24)

<大阪市 24 区>



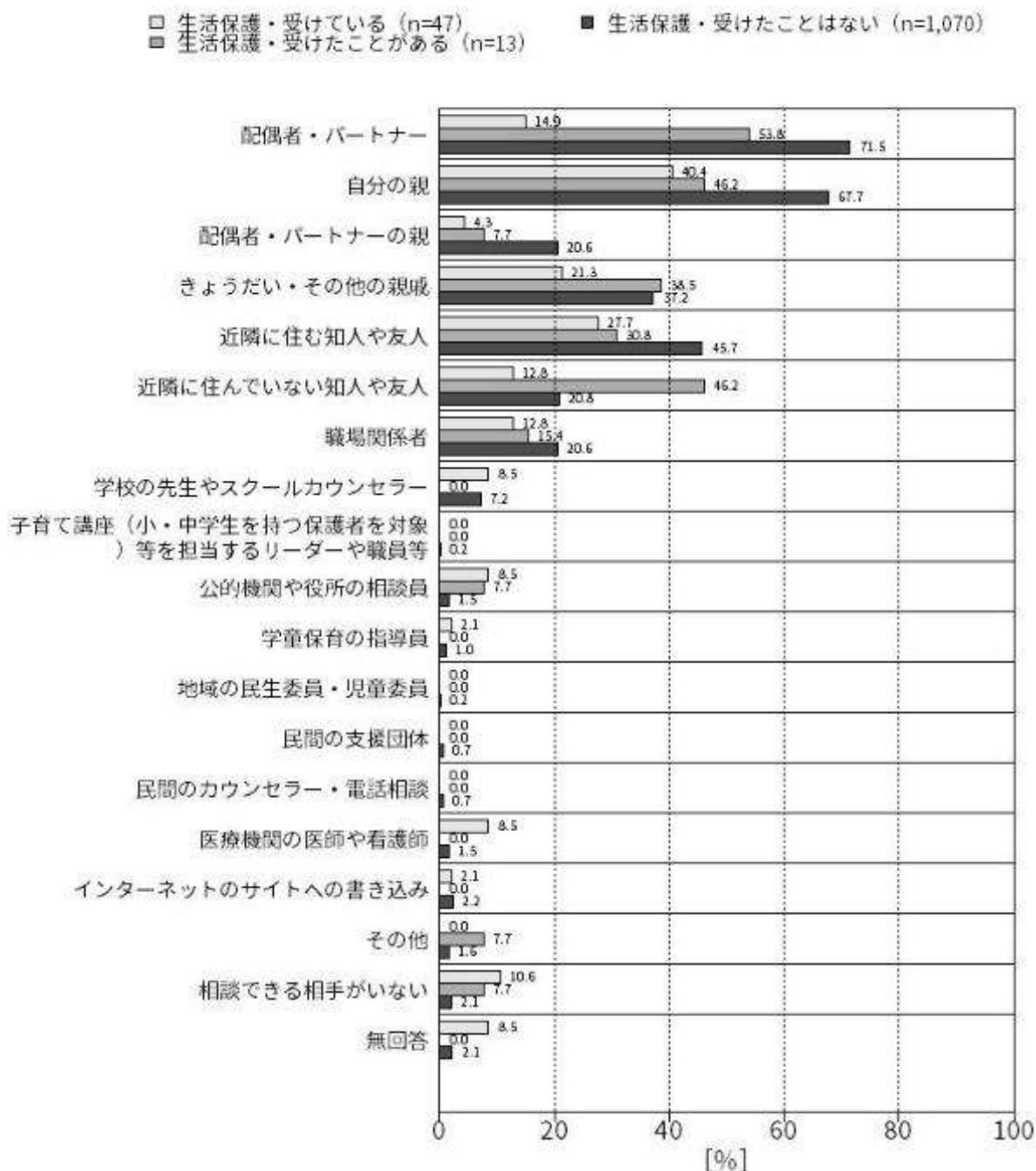


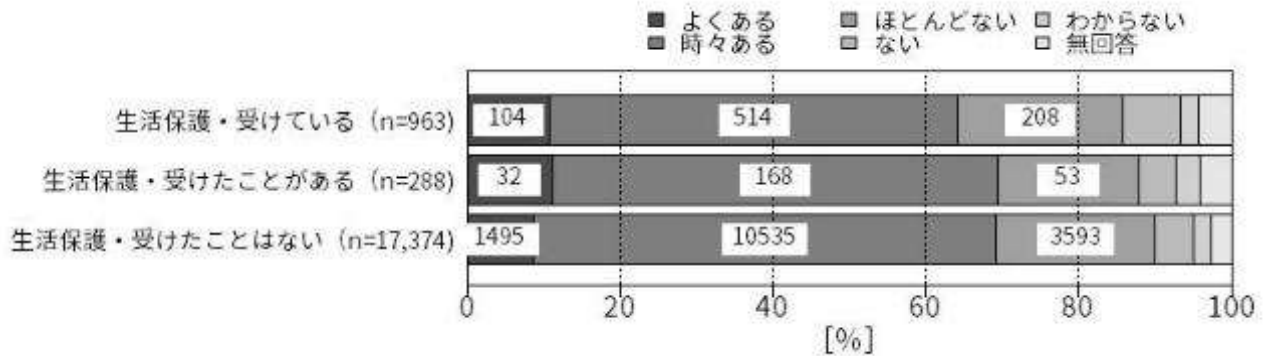
図 133. 生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、「相談できる相手がいない」という回答が 10.6%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 2.1%であった。また、生活保護を受けている世帯では、「学校の先生やスクールカウンセラー」「医療機関の医師や看護師」が多く、「配偶者・パートナー」が少なかった。

生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
(保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 27)

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

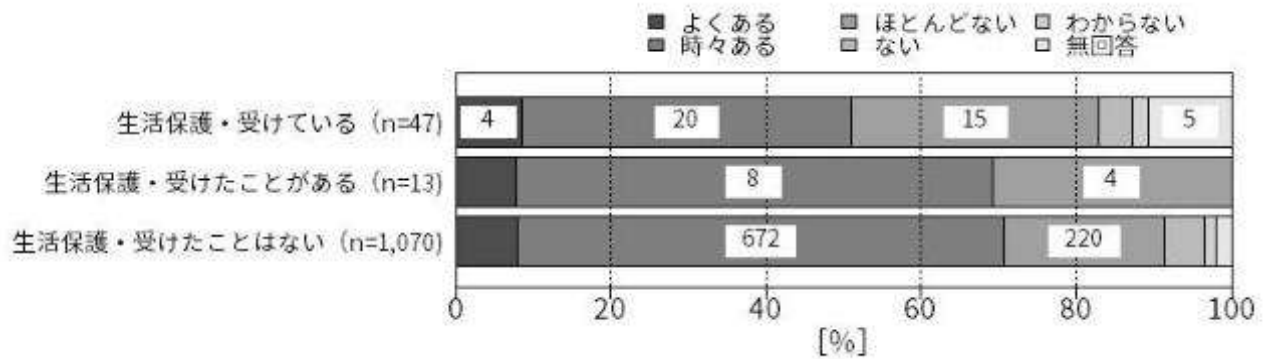
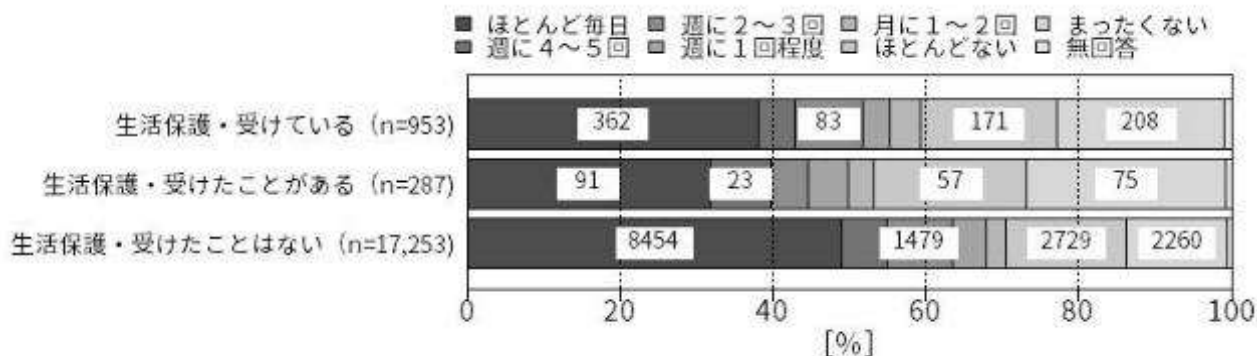


図 134. 生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。
生活保護を受けている世帯では、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「時々ある」と回答した人が 42.6%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 62.8%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10①）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

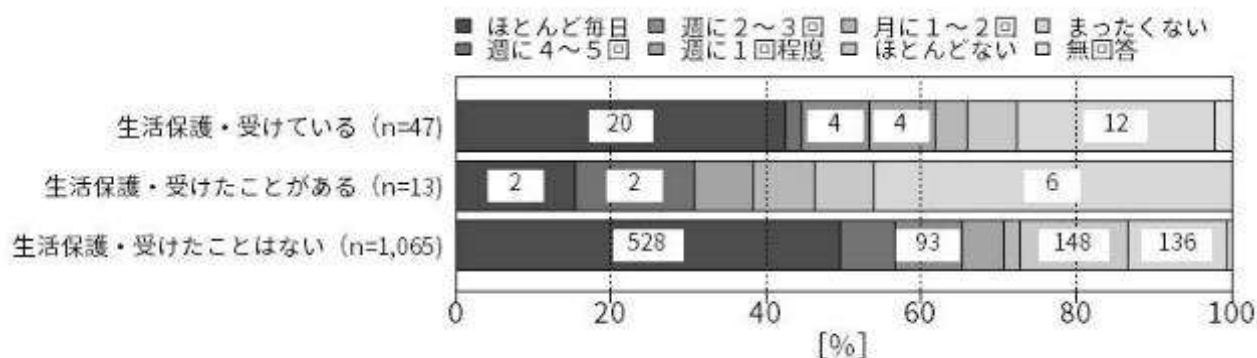
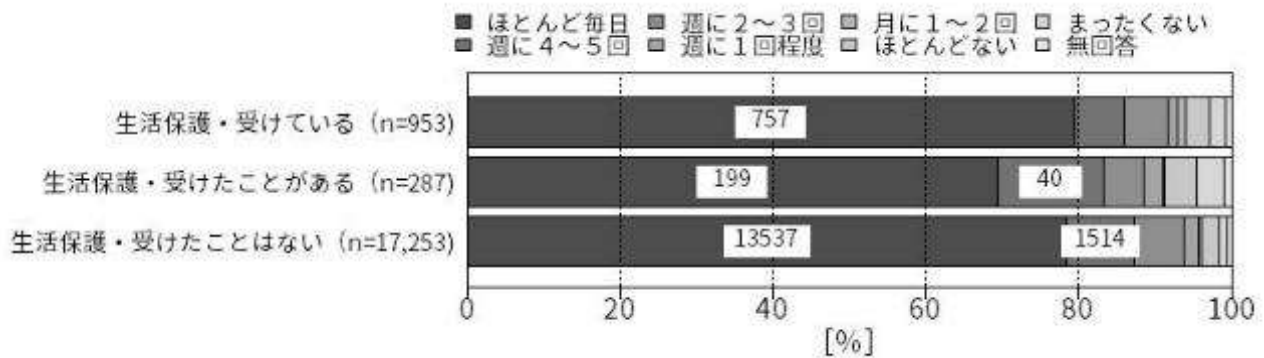


図 135. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
 （おうちの大人と朝食を食べるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。
 生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べることが「まったくない」と回答した子どもが 25.5%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 12.8%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10②）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

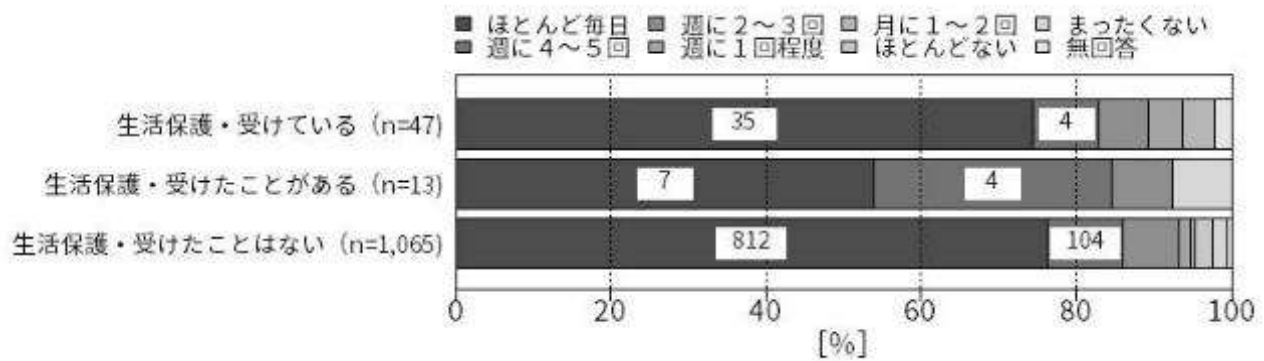
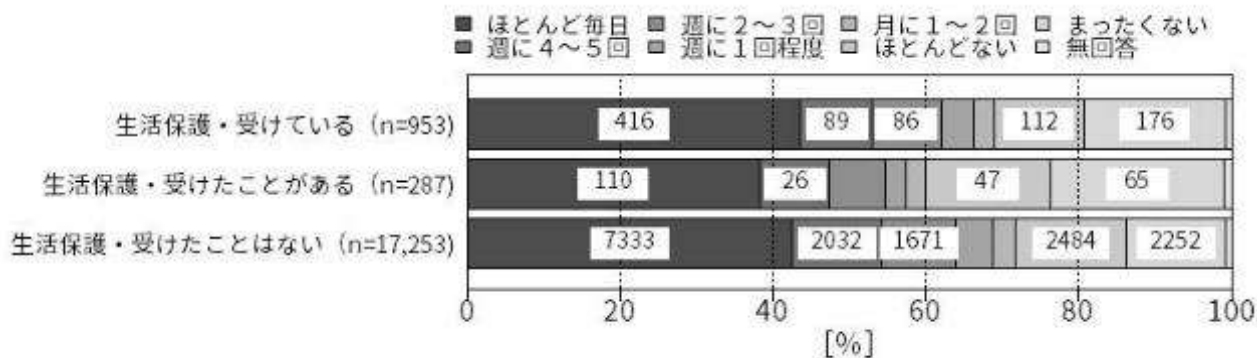


図 136. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
 （おうちの大人と夕食を食べるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。
 生活保護を受けている・受けていないによって大きな差は見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に朝、起こされるか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10③）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

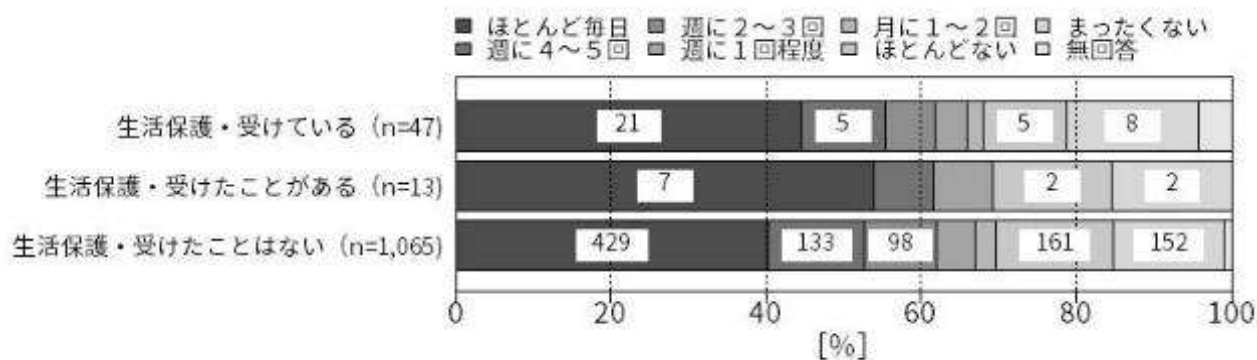


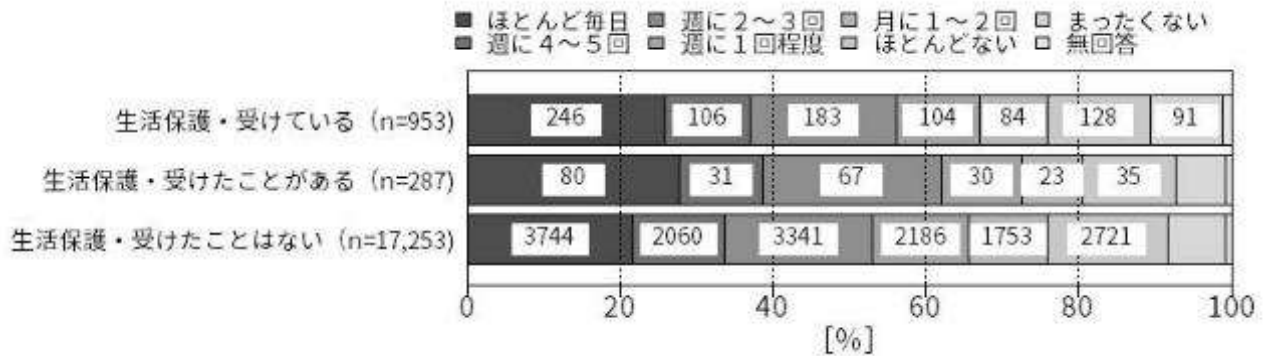
図 137. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人に朝、起こされるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。
生活保護の受給状況別によって、おうちの大人の人に朝起こしてもらうかどうかには大きな違いは見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10④）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

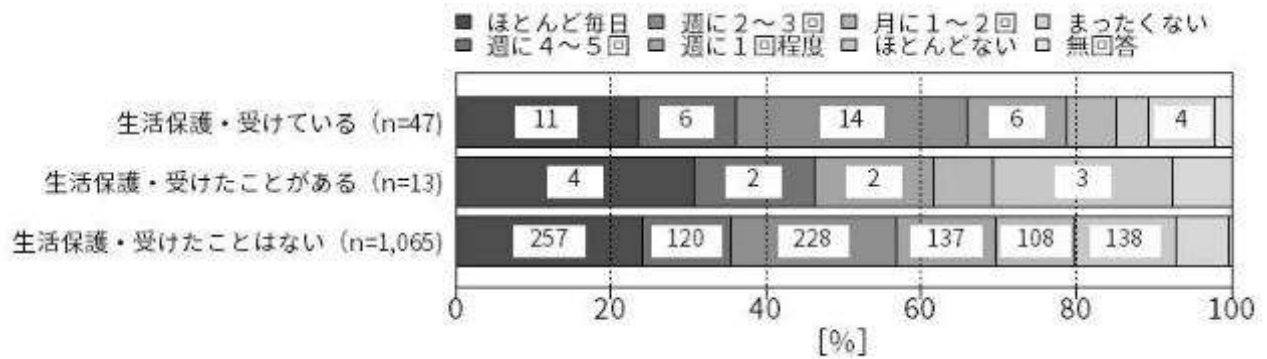
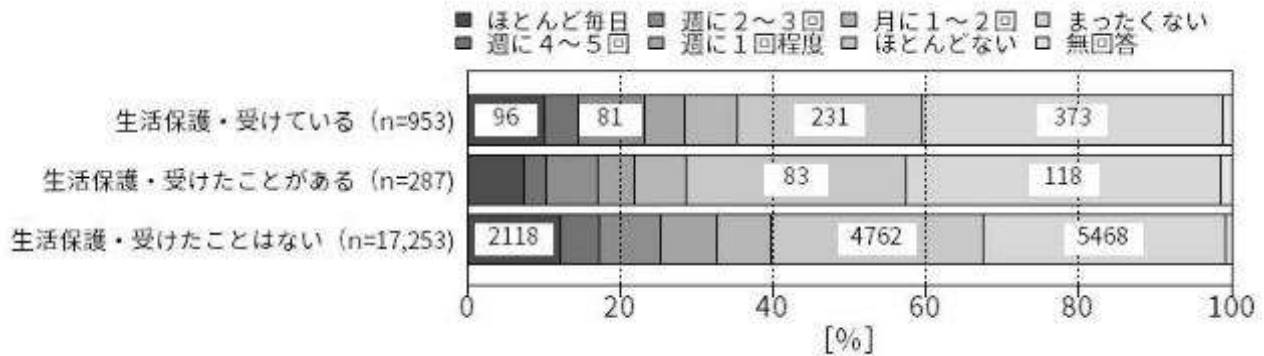


図 138. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（家の手伝いをするか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。
生活保護の受給状況別によって、家の手伝いをするかどうかには大きな差は見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑤）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

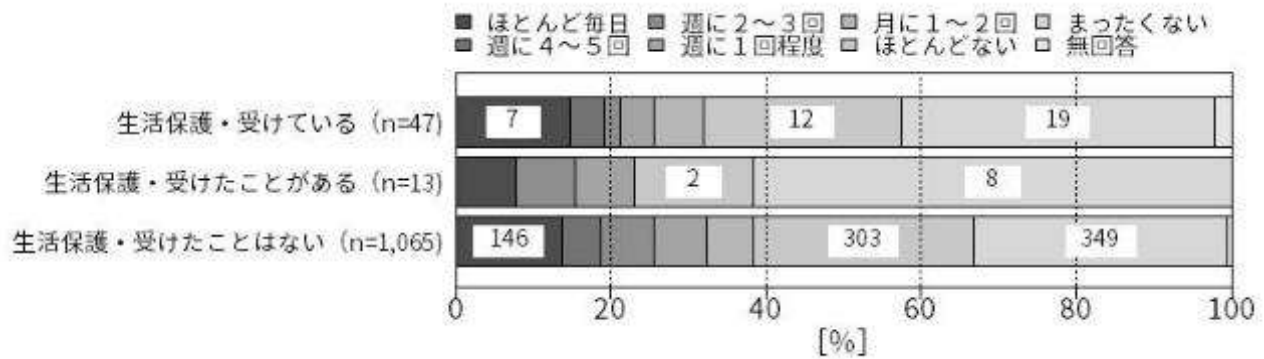
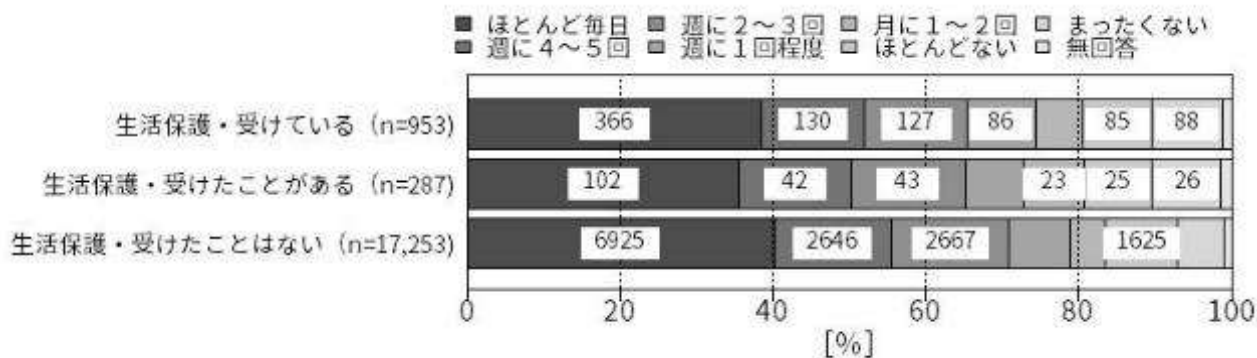


図 139. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。
生活保護の受給状況別によって、宿題をみてもらうかどうかには大きな差は見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑥）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

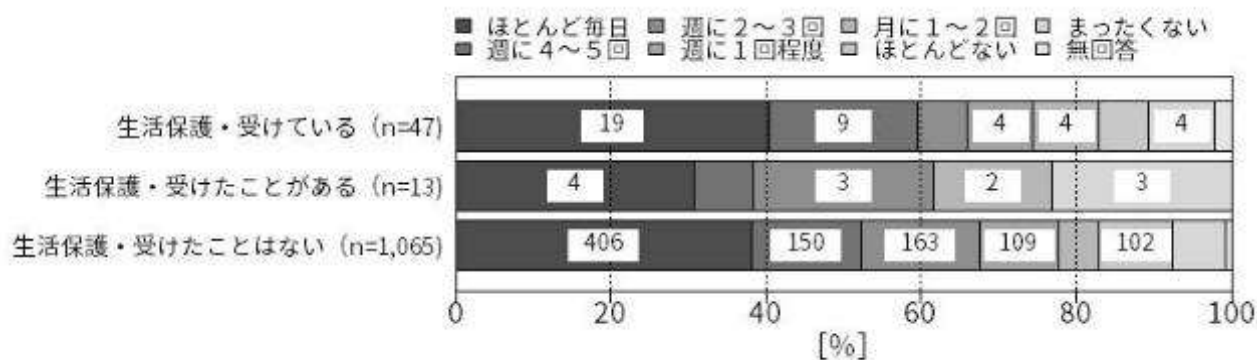


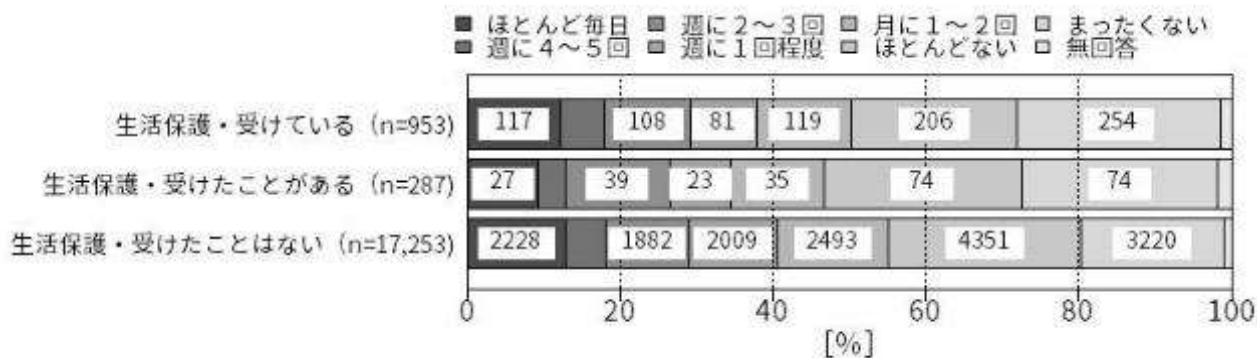
図 140. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
 （おうちの大人と学校の話をするか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯・生活保護を受けたことがない世帯で、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すことに大きな差は見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑦）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

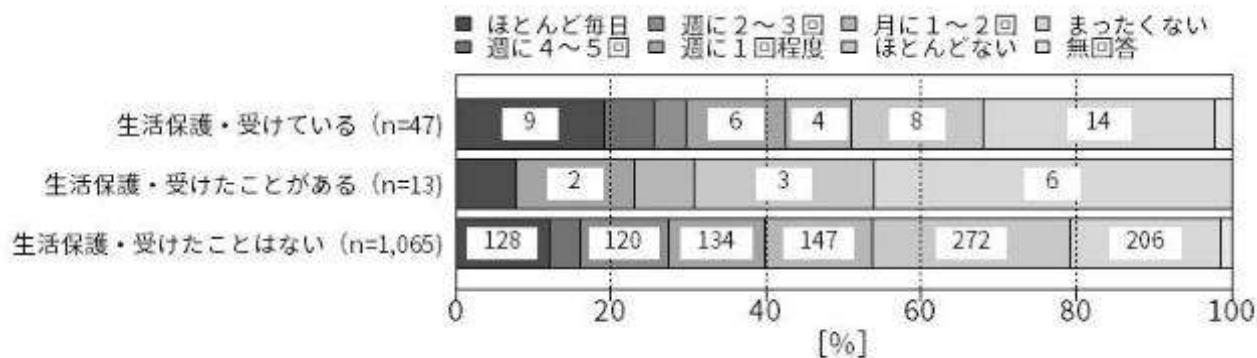


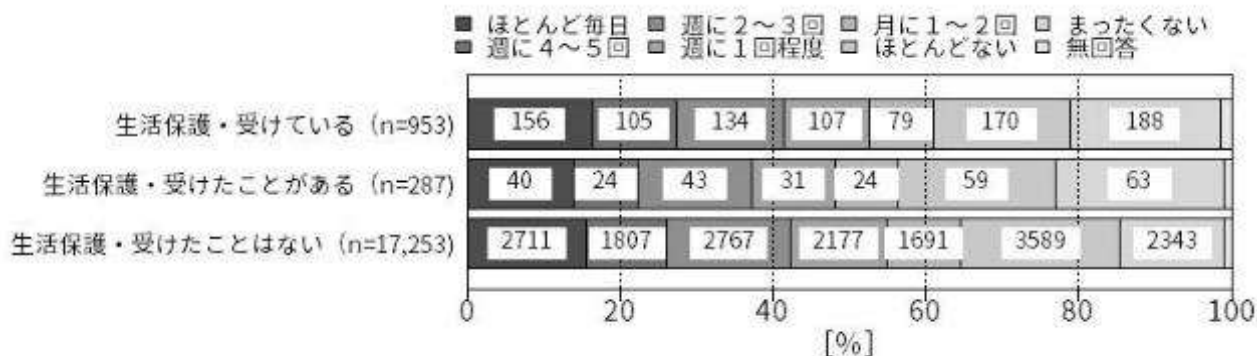
図 141. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりすることが「まったくない」と回答した子どもが 29.8%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 19.3%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑧）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

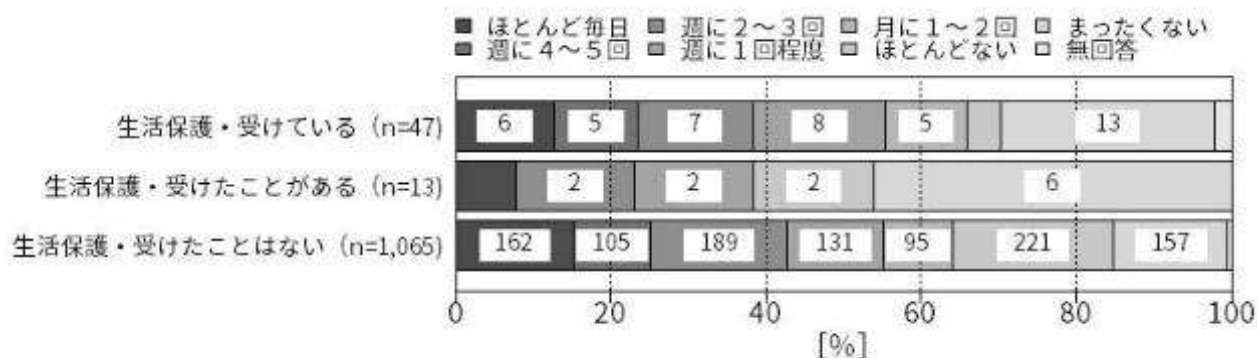


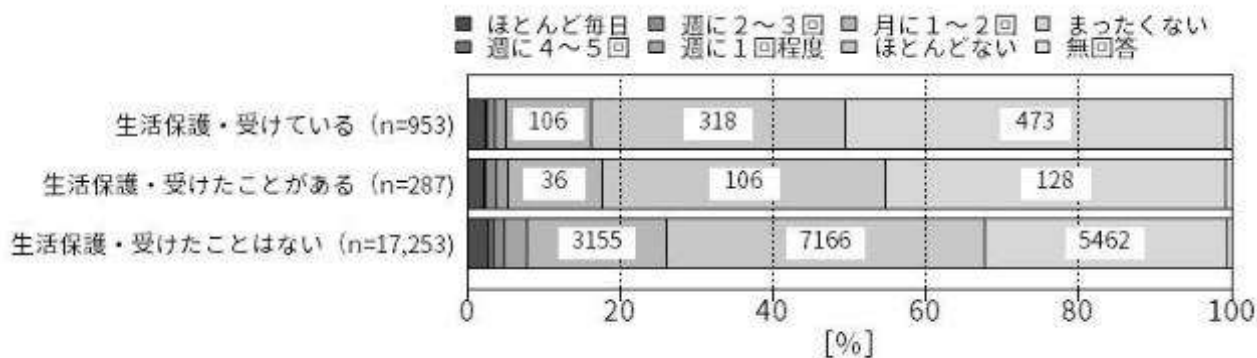
図 142. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と社会のできごとを話すか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話し合うことが「まったくない」と回答した子どもが 27.7%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 46.2%、生活保護を受けたことがない世帯では 14.7%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑨）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

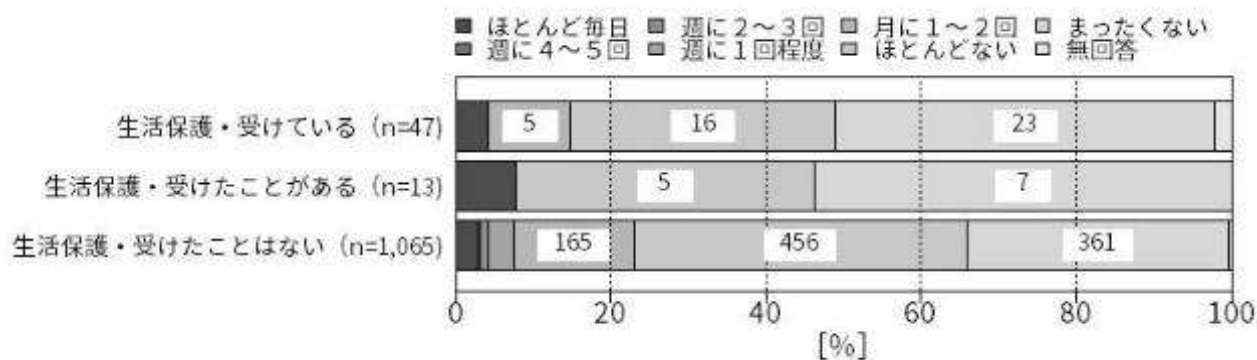


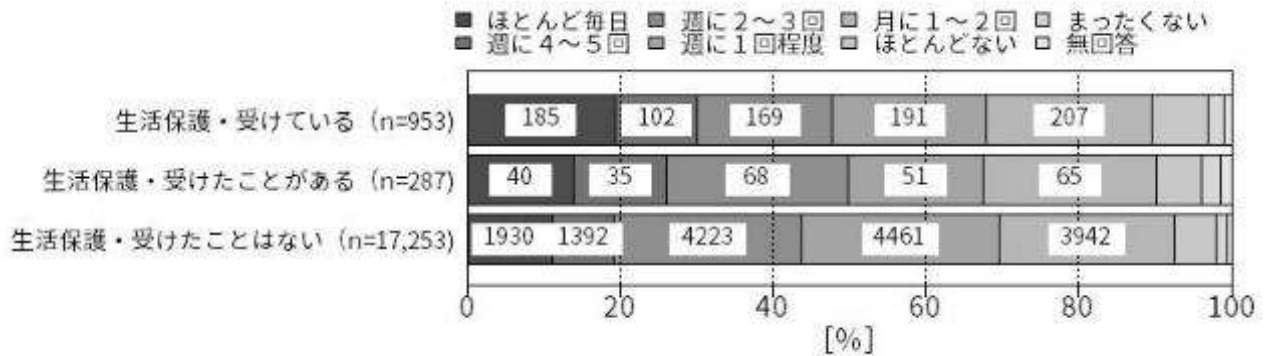
図 143. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と文化活動をするか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と文化活動することが「まったくない」と回答した子どもが 48.9%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 33.9%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑩）

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

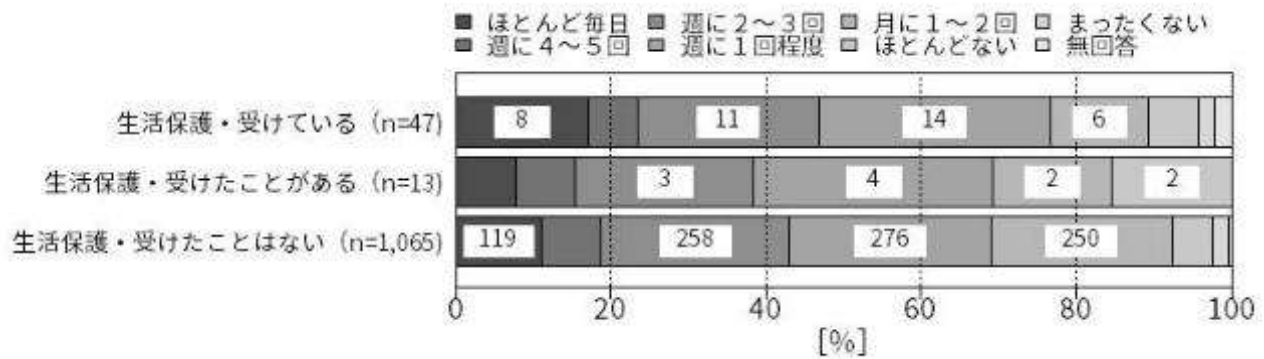
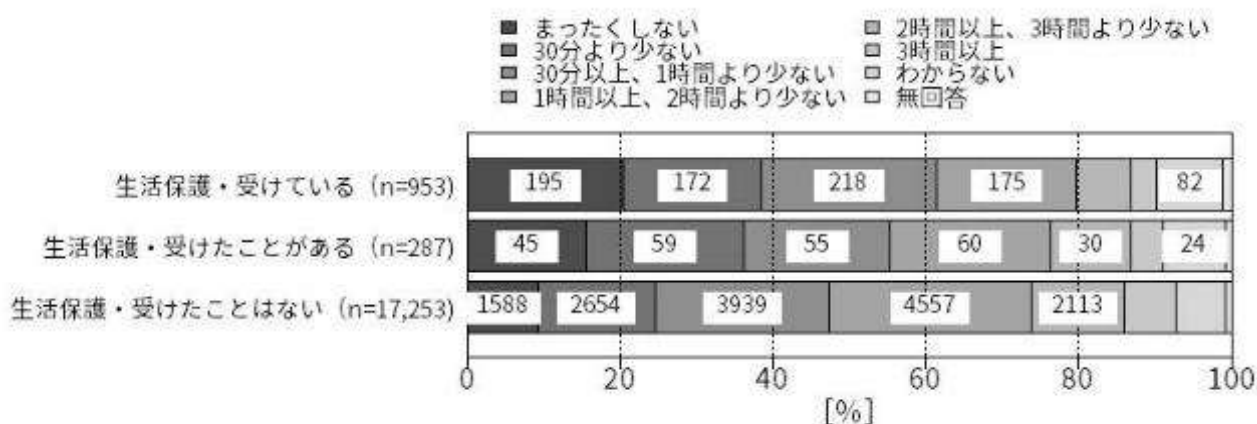


図 144. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
 （おうちの大人と一緒に外出するか）

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に外出することが「ほとんど毎日」と回答した子どもが 17.0%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 11.2%であった。

<大阪市 24 区>



<大阪市淀川区>

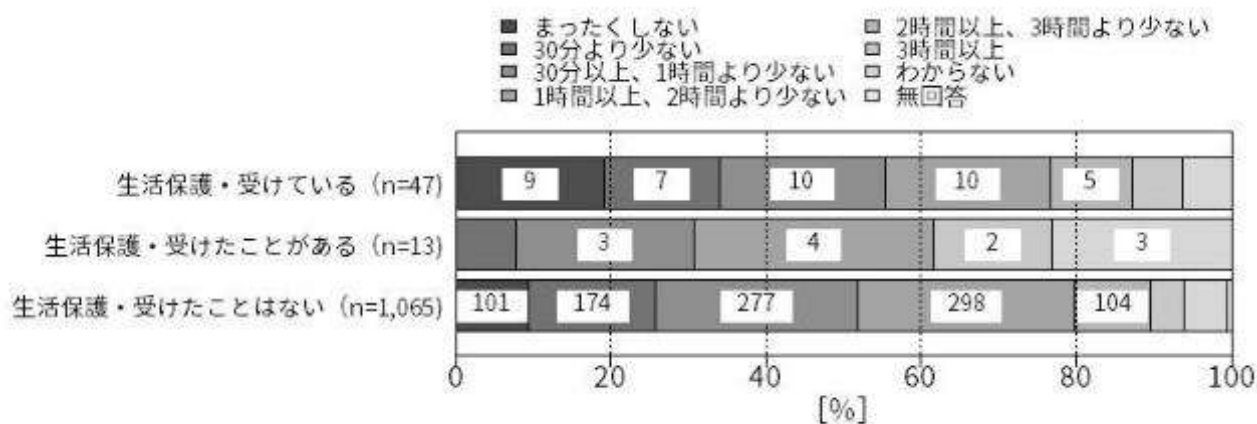


図 145. 生活保護の受給別に見た、授業以外の勉強時間

生活保護を受けたことがある世帯は少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。
生活保護を受けている世帯では、授業時間以外に勉強を「まったくしない」と回答した子どもが 19.1%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 9.5%であった。